

銅版画（ありえない世界の創造）

千葉県立佐原白楊高等学校 宮澤篤志

1. この授業で付けたい力

- ① 版画は凹版、凸版、平版、孔版の4種類に大別される。木版、銅版、石版（リトグラフ）シルクスクリーン（孔版）それぞれ版の特徴を理解させる。
- ② 版画の制作を通し、版を作っていく過程や刷り上がったときの達成感など様々な喜びを味わう。
- ③ 描画では得ることのできない銅版画独自の美しさを感じ取り、表現する喜びを味わう。
- ④ 銅版画は凹版である。版に溝や傷をつけ、そこにインクをつけて印刷するという技法は体験してみないと理解しにくい。また、銅版画は線描による精緻な表現が可能な版画である。銅版画の技法を理解させ、その特質を生かした表現を工夫させる。
- ⑤ コラージュという手法を使い、シュウルリアリズム（超現実主義）や夢の世界などの表現方法を理解する。

2. 材料・道具

エッチングプレート（15cm×10cm） トレーシングペーパー
カーボン紙 ニードル インク ハーネミューレ紙（2枚）
コラージュ作品（夏休みの課題） その他

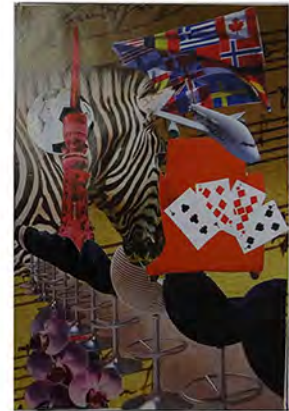
3. 展開

■ 導入（1時間）

- ・ 版画全般（凹版 凸版 平版 孔版）について説明
- ・ 制作手順と時間配分について説明、先輩達の作品提示

■ 制作（14時間）

- ・ 原画の作成・・・夏休みの課題としてコラージュ作品を提出させる。
テーマは「ありえない世界の創造」シュウルリアリズム（超現実主義）や夢の世界などダリやマグリットの作品を提示し、現実にある物を使い構図・色などを考え銅版画の下絵として完成させる。



- ・ 図柄の転写・・・下絵にトレーシングペーパーを重ね図柄を写す。明暗も線（ハッチング）を使い描き込む。写し終えたらトレーシングペーパーを裏返してエッチングプレートに重ね、間にカーボン紙差し込み上からなぞって図柄を写す。（カーボン紙とトレーシングペーパーの間に白い紙を置く）



- ・ 製版・・・ニードルを使い線（ハッチング）意識して、明暗を描いていく。黒く広い部分も鉛筆のように塗るのではなく、できるだけ線を使い彫っていくようにする。また、あまり深く彫りすぎないように注意する。



- ・ 腐食・・・5分から8分くらい
腐食液につける。この時間常に筆を
使い表面の気泡を取り除く。
腐蝕が終わったら水で裏表を
キレイに洗う。



- ・ 刷り・・・ハーネミューレ紙を10分くらい水につけ、新聞紙
で水分をとる（とりすぎないように注意）。インクをローラー
で溝に埋め込むように塗る。版全体をインクで黒く塗ったらチ
リ紙を使い表面のインクを取る。この時取りすぎないように注
意する。一人二枚刷り、刷りの良い作品を学校に提出する。
一枚は自分で持って帰る。（一人二枚刷るが、インクが薄かった
りした場合は枚数を増やす。）





■まとめ（1時間）・・・完成作品を校内に展示鑑賞、合評会をする。



☆生徒作品



4 . 観点別評価

美術への 関心・意欲・態度	版の制作過程や刷りあがりに喜びを味わい、多様な表現方法や技法に関心を持ち、主体的に表現活動に取り組もうとしているか。
発想や構想の能力	シュールリアリズムや夢の世界の表現方法を理解しコラージュ制作において、感じたことや考えたことをもとに表現の構想を練っているか。
創造的な技能	線による描写、ハッチングなどを身に付け意図に応じて表現方法を工夫しているか。
鑑賞の能力	作品を鑑賞し、表現の工夫や線の美しさ、モノクロームの魅力など創造的に味わっているか。